【令和８年度 第１回愛媛県認知症施策推進会議ワーキンググループ
（若年性認知症自立支援ネットワーク会議）会議結果概要】

１　会議の名称

令和８年度第１回愛媛県認知症施策推進会議ワーキンググループ
（若年性認知症自立支援ネットワーク会議）

２　開催日時

令和８年８月２６日（水）15:30～17:00

３　開催方法

愛媛県総合社会福祉会館　４階　視聴覚室
※現地とオンラインのハイブリット開催

４　出席者

構成員１０名
事務局　５名（長寿介護課）
関係課　１名（健康増進課）
　　計１６名

５　内容

（１）開会
（２）課長挨拶
（３）構成員紹介
（４）議事
　①愛媛県認知症施策推進計画（仮称）について
　②えひめ認知症希望大使の委嘱について
（５）その他
（６）閉会

６　審議の内容（全部公開・傍聴者０名）

（１）愛媛県認知症施策推進計画（仮称）について＜資料１＞

愛媛県の認知症施策推進計画（仮称）の構成・施策体系、基本理念及び重点目標について、令和７年第２回認知症施策推進会議等での意見を反映し、認知症施策推進計画策定意見交換会での本人・家族・関係者の意見を説明した。

【構成員からの主な意見】

・県民が認知症について正しい知識を理解していないという問題は実情と合致している。
・新しい認知症観の浸透には、医療との連携が重要であり、専門職も認知症観を学び直す必要がある。
・「新しい認知症観」を浸透させるためには、時代にあった発信方法の工夫として、SNS などを活用すること、シンプルに伝えることが重要である。
・「新しい認知症観」の認知度を上げるには、周知活動に注力すれば良いが、本質は、何を実現させたいかということが重要である。
・重点目標 3 の「認知症の人の生活において意思が尊重されている環境づくり」の「尊重されている」の後ろには、尊重されている「と実感できる」が隠れているのではと考える。
・認知症はマイナスイメージが強く、誤解も多いが、進行していても得意なことはできる。県民に、認知症でも活躍している人がいることを知ってもらいたい。
・当事者、家族としては、特別扱いではなく、さりげない手助けをお願いしたい。
・若い世代の多様性を尊重する考え方が高齢層にも浸透することを期待している。
・認知症を一つの個性として、個人の得意分野を活かした就労や社会参画が重要である。

（2）えひめ認知症希望大使の委嘱について＜資料２＞

えひめ認知症希望大使の２名の委嘱及び今後の本人発信の方向性について意見を伺った。

【構成員からの主な意見】

・大使という肩書、顔写真の公開は重圧を感じるため、肩書がない状態であれば、自分以上に苦労している方も多いと思うので、頑張りたい。
・大使として活動していただくには、大使を支える側の役割も重要である。
・県内のピアサポーターを増やすことで、活動が広がると考える。
・自分の医療現場の経験では家族同士のピアサポートが自発的に生まれた事例もあったが、当事者本人は疲弊状態で余裕がない方が多いかもしれない。
・匿名での活動など「間口を広げる」アプローチが有効である。
・信頼できる方からの推薦、紹介が動機付けになる可能性もある。

7　意見交換の結果

ここで検討された内容は、愛媛県認知症施策推進会議に報告する。

〔事務局〕
保健福祉部生きがい推進局
長寿介護課介護予防係
電話　089-912-2431
FAX　089-935-8075